

2番目の重み

算数科研究部顧問 浜松市立北浜南小学校長 西川 正師

設問：学校での学習や活動の中で、一番自分が成長したと感じたのはどんな場面でしたか。
結果：2番目に高い 算数（12.8%）

上の設問は、第3次浜松市教育総合計画後期計画の「こどもへの意見募集結果報告」内で、4、5、6年生が回答した結果です。この結果を、どう受け止めたらいいのでしょうか。

1番目に高い回答が、「学習」13.0%、3番目が「行事」（9.5%）、4番目が体育（8.3%）となっています。「算数」のパーセンテージはそれほど高くはないものの、行事や体育より高い結果となっています。やはり、このデータからも、算数という教科が子供たちに対して大きな影響があることが理解できます。説明欄には、「算数」は、自分自身で成果を実感しやすい教科で成長を感じやすいということが書かれていました。なるほどと思いつつ、「わからない」「できない」が積み重なっていけば、逆もあるかもしれないと感じました。算数は、指導者の投げ掛け次第で、学びが深まる教科だと常々感じています。授業において、成長が感じられるような場面を、多く創り出していきたいものです。このことも踏まえて4月の主任者会で、算数科主任の皆さんには、以下の2点についてお願いしました。

- ・子供の「わかった」「できた」という姿を、ともに喜べる教師を目指したい。
- ・学級の子供たちの中で、一人でも二人でも算数が好きだという子を増やしていきたい。

現行の学習指導要領には、「算数を学ぶことは、問題解決の喜びを感得し、人生をより豊かに生きることに寄与するとともに、これからの社会を思慮深く生きる人間を育成することに大きく貢献すると考えられる。」と書かれていますが、この1年間、各学級において、算数好きな子供が1人でも2人でも増えるよう、互いに切磋琢磨していきましょう。どうぞよろしくをお願いします。

第1回 浜松市教育研究会 算数科研究部研修会のお知らせ

- 1 日時 令和7年5月21日（水）15:00～16:30
- 2 会場 浜松市立都田南小学校
- 3 内容
 - 本年度の研修計画
 - 実践発表
発表者 高木 淳也（三方原小） 目黒 遼平（中郡小）
鴻池 俊輔（豊西小） 矢島ひとみ（庄内学園）
- 4 その他
 - 今回の役員当番部会は、5部会です。5部会の先生方には詳細をT-portにて別途お知らせしますので、よろしくお願いいたします。
 - 駐車場に限りがありますので、乗り合わせでお越しください。また、当日は、駐車場係の指示に従って駐車をお願いします。

担当 可美小 荒熊 千佳

「だったら…」「ということは…」

算数科研究部長 浜松市立笠井小学校 鈴木 慎也

6年生の教科書に「パスカルの三角形」が取り上げられています。授業では、子供たちは、数の並び方に着目して増え方を調べ、その決まりに驚いたり、○の倍数の数字に色を塗って出てきた模様で歓喜したりと、夢中になって新たな決まりを見付けようとしていました。「この列を調べたら○○だった。だったら…」「○の段の数を塗ると逆三角形が出てきた。ということは…」というように友達から出てきた考え方から発展させて考えを深めることができ、とても興味深い教材だと感じました。算数科の授業で学んだことが、普段の生活や社会ではどんな風に使われているのかなと考えを広げるために、「だったら…」「ということは…」という考えを大切に扱い、子供たちの算数の世界を広げていきたいと思えます。

算数科研究部の研修会では、毎年先生方の興味深い実践内容や、授業のネタを知ることができます。講師の先生からの講話でも、様々なアイデアをいただくことができます。ぜひ、「うちの学校だったら…」「今の学年だったら…」「この単元で使えるということは…」と御自身の立場に置き換えて研修を深めていただけたらと思えます。

昨年度に引き続き、部長を務めさせていただくことになりました。先生方にとって実りある研修会が企画・運営できますよう、役員一同力を合わせて頑張ります。よろしくお願いいたします。

数学的な見方・考え方を働かせる授業づくり

部報編集委員会 担当副部長 浜松市立可美小学校 荒熊 千佳

算数科研究部では、研究テーマの具現化のため、5つの視点を設け、研修を進めています。今回は、その中の2つの視点について、6学年「円の面積」で行った実践を紹介します。

① 子供たちの「学びたい」「知りたい」という思いを喚起する単元設定



児童が主体的に課題解決できるようにするために、単元を通してピザの大きさを求める課題を設定しました。単元の導入では、上図の4つのピザが全て同じ値段の時、どのピザが得かを予想させました。単元の終末に答え合わせをすることを伝えると、「早く円の面積を求めたい。」と、学習意欲を高めることができました。

② 数学的な見方・考え方を働かせながら、問題解決していく場の設定

数学的な見方・考え方を働かせるために、算数科で大事な視点(右図)を明確にしました。単元の導入で、円の面積はどうしたら求められるかを問うと、「5年生で習ったおおよその面積を使えば求められそう。」「円を八等分して、正八角形(三角形8つ分)の面積を求めればいい。」など、円を求積可能な図形と見て、既習事項を基にして考えることができました。また、円と多角形を組み合わせた図形を求める授業の終末では、4年生で扱った長方形を組み合わせたL字型面積や、5年生で扱った直方体を組み合わせた体積の問題を提示し、前学年までの複合図形の求め方の共通点を考えさせました。児童は、どれも「全体からいらぬ部分を引く」という考え方は同じであることに気づき、教科の系統性のよさを実感しました。

算数で大事なこと

- ・新しい問題も今まで習った解き方で解けるか考える
- ・いろいろな方法の共通点を比べる
- ・数字を変えても成り立つか考える
- ・図形…切る、動かす、線を引く

算数科研究部のサブテーマに、「学び合う喜びを味わえる」という文言があります。今後も児童が「算数が好き、おもしろい」と感じることができる実践をしていきたいと思えます。